

科目名	日本文化論特講 I	担当者	コンドウ 近藤 健史	期間	通年	単位数	4
-----	-----------	-----	---------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	本講義については古代日本の人々が、外国からの「文化」や「言語・文字」を受け入れたことにより、何を創造したのかを考えることを目的とする。具体的には、奈良時代に、東アジアにおける異文化交流にあって、日本人は何を創造したのか、どのように外国語と付きあっていたのかを明らかにする。		
到達目標	本講義は古代日本における異文化との交流を明らかにすること、もう一つは、漢字、漢語と出会い、何を表現するようになったのかについて学ぶことを到達目標とする。		
学修方法	本講義の学修方法は、基本教材『万葉びとの生活空間』と『古代日本人と外国語』を在宅学習して、レポート課題について参考文献等を調べ、レポートを作成し、その後教員による添削を基本とする。		
スケジュール	前期：基本教材『万葉びとの生活空間』を学習して、前期レポート課題（1）（2）について9月中旬までにレポート提出する。 後期：基本教材『古代日本人と外国語』を学習して、後期レポート課題（1）（2）について1月の課題提出締切日までにレポート提出する。		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	100%	
	平常評価	%	
履修者への要望	参考文献にあげたもの以外にも、各自で関連する論文等を探し読んで欲しい。積極的な熱意あるレポートを望む。		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 上野誠 教材名： 『万葉びとの生活空間』（塙書房，はなわ新書 078，2000 年） ISBN:978-4-82-734078-5 1,200 円+税
	本教材は、飛鳥・奈良時代の万葉びとが生活した空間の中で、どのような万葉歌の表現が生まれてきたのかについて述べている。具体的には、万葉びとと「都」「庭園」「耕作地」などの生活空間との関係である。
参考図書	上野誠『万葉びとの奈良』（新潮，新潮選書，2010 年）ISBN:978-4-10-603655-2，1,100 円+税 渡瀬昌忠『渡瀬昌忠著作集 第六巻 島の宮の文学』（おうふう，2003 年） ISBN:978-4-27-303256-2 12,000 円+税 辰巳正明『悲劇の宰相・長屋王』（講談社，1989 年） ISBN:978-4-06-258019-9 ・参考文献は，教材の巻末に「参考文献一覧」と記してある。
履修上のポイント	東アジアにおいて、「武」の王から「文」の王に転じようと帝王たちは歴史に名を残す「庭園」を造ったという。わが国においても飛鳥・奈良時代から王の宮や個人の邸宅に「庭」が造られた。古代庭園の思想が、歌や生活とどのようにかわるのかを理解することが大切である。 本教材の「はじめに」を必ず読むこと。
レポート課題 1	万葉びとの生活空間における「シマ」と呼ばれる庭園の文化的意味について説明しなさい。 <b>留意点：</b> 庭園が「シマ」と呼ばれる意味、「島の大臣」の呼称、「島の宮」の主人、「島の宮」の歌（巻 2-171～193）などについて考えてみること。
レポート課題 2	長屋王の庭園、作宝楼における「菊花の宴」と「尾花の宴」の歌の場とその意味について説明しなさい。また、二つの宴の様子を想像し、説明しなさい。 <b>留意点：</b> 「菊花の宴」（『懐風藻』66・68・71）と「尾花の宴」（『万葉集』巻 8 -1637・1638）を理解すること。そして「菊花」「尾花の室」の意味することについて考えること。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 湯沢質幸 教材名： 『増補改訂 古代日本人と外国語—東アジア異文化の交流の言語世界—』（勉誠出版，2010 年）ISBN:978-4-58-528002-6 2,800 円+税
	本教材は，古代日本における異国言語との格闘の歴史を明らかにしたものであり，「言語」から考える東アジア文化交流史である。なお「主要参考文献」が巻末にある。
参考図書	平川南他編『文字と古代日本 2—文字による交流—』（吉川弘文館，2005 年） ISBN:978-4-64-207863-4 6,500 円+税 岸俊男編『日本の古代 14—ことばと文字—』（中央公論新社，1996 年）ISBN:978-4-12-402547-7 1,748 円+税 大島正二『漢字伝来』（岩波書店，2006 年）ISBN:978-4-00-431031-0 760 円+税
履修上のポイント	古代日本人は，東アジアの人々とどのような言語で交流し対処していたかを学んで欲しい。
レポート課題 1	古代日本人は，外国語に何を感じたのか説明しなさい。 <b>留意点：</b> 呉音・漢音・仏教界・儒学界などをキーワードとして考えること。
レポート課題 2	古代日本における「通訳」の役割と実態について説明しなさい。 <b>留意点：</b> おさ・対象国・身分・養成などをキーワードとして考えること。